

慶應義塾大学 vs 国士舘大学

10月5日(日)
11:30K.O.
中大G

前期、守備を徹底させて白星を重ねてきた慶大だったが、後期に入って1勝1分2敗と苦しい戦いが続いている。前節の明大戦も1-4の敗戦となってしまった。

「我慢して守って、無失点で抑えて1点取るというのが今年の慶大のサッカー。途中で追いついたりもしたが、最初の失点で試合が決まってしまったと思う。相手とのレベルが違う。完敗の一言に尽きる」(須田芳正監督)

無失点が勝利の条件だが、前半3分という早い時間帯に課題としていたセットプレーから失点してしまっただけに、須田監督の表情も険しい。

「簡単に失点しすぎてしまった。いい守備からいいカウンターを狙っていたが、なかなかいい形でできなかった。全体的な雰囲気もよくなかったし、ハードワークもできていなかった」

もう一度、自分たちの原点に立ち返り、しっかりとした守備を徹底させたい。

今シーズンはなかなか波に乗りきれず、後期もなかなか自分たちらしいサッカーができなかった国士大だが、前節では中大を相手に5-1の快勝。

「14節の早大戦のように、後手を踏んだらやられてしまう。常に先手を取ろうと話をし、そのとおりのプレ

ー一を選手がやってくれた」(細田三三監督)

非常に厳しく球際いき、奪ってからゴール前までスムーズにボールを運んだ。後期で一番、前へ前へという姿勢が出ていた試合だった。問題はこれを続けていけるかどうか。

「矢継ぎばやに一人、二人、三人目ぐらいいまでプレッシャーをかけることができた。これを継続していきたい」(細田監督)

警告3回：溝淵雄志(慶大)、海野智之(国士大)

前期の対戦：慶大0-0(シュート数9-10)国士大

慶大				国士大			
14. 井上	11. 増田	14. 佐々木	25. 中村				
2. 久保	9. 宮地	11. 平松	3. 福田				
	10. 端山		6. 海野				
1. 峯			21. 久保田				
	18. 浅間		8. 松本				
6. 望月	13. 加瀬澤	20. 山口	15. 附木				
4. 保田	8. 山浦	10. 進藤	2. 藤寄				

早稲田大学 vs 中央大学

10月5日(日)
13:50K.O.
中大G

上位陣が引き分けたり負けただけに、勝てば首位に立つチャンスがあった早大だが、前節は最下位の筑波大に0-1の敗戦。

「点を取れなかったことがすべて」(古賀聡監督)

前半、風下で押される展開のうえ、開始早々の8分に失点。これが最後まで重くのしかかった。

「流れの中で相手に崩されているわけではないので、プレッシャーの部分はさらに継続して高めていければと思う」(古賀監督)

確かに、失点はこの1点のみ。前半はややボールを持たれる時間もあったが、風上のは後半は主導権を握った。しかし、その時間帯に点を奪えなかったことが課題。

「プレーやボールの精度だったり、自分たちの強みであるプレッシャーやボールに早く迫るところを、さらに高めていきたいと思う」(古賀監督)

4位とはいえ、首位の順大とは勝点差5ポイント。まだまだ巻き返しのチャンスはあるが、逆にこれ以上離されると厳しくなるだけに、勝負の一戦だ。

伝統校の中大が追い込まれている。前節は国士大に1-5の大敗。残留争いのプレッシャーからか、自分たちのサッカーを貫くことができなかった。

「力が出しきれていない」(白須真介監督)

どんな相手に対しても、前からいく状況を作り出していきたいと考えているが、この日はそういったプレーを表現できなかった。

「守備からしっかりとやろうというところを、もう一度再確認して臨むしかない。ボールに対してプレッシャーをかけていく。そういった状況を作っていくために、恐れずにやっていきたい」(白須監督)

出場停止：橋本龍馬(中大) 警告3回：岡崎亮平(中大)

前期の対戦：早大2-1(シュート数11-4)中大

早大				中大			
12. 八角	8. 堀田	10. 砂川	6. 鴨池				
4. 金沢	14. 山内		5. 岡崎				
	10. 近藤洋		8. 三島				
1. 松澤		9. 内田	17. 飯干	21. 置田			
	2. 奥山		16. 秋元				
3. 田中	9. 宮本		29. 小川				
5. 新井	7. 近藤貴	23. 翁長	22. 新藤				

※布陣は前節を参考にした予想メンバー

JR東日本カップ 2014 第88回 関東大学サッカーリーグ戦

OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.26-NO.16 Division1



編集：加茂郁実 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

明大が4連勝で首位・順大に3ポイント差まで迫る!

10月を迎え、後期リーグも中盤戦に突入した「JR東日本カップ2014 関東大学サッカーリーグ戦」。明大以外の上位チームが敗れる大波乱となった前節を振り返ろう。

まず、首位を走る順大。勝てば一気に2位以下のチームを引き離すチャンスだったが、苦手とする駒大に0-1の敗戦を喫してしまった。駒大はシュート2本で1ゴールの勝点3と、効率のいいゲームを見せた。

2連敗を喫した専大。前節の東工大戦も攻めに攻めて二度リードを奪ったものの、いずれも守りきれず2-2の引き分けに終わった。また、東工大も粘り強さを見せたものの勝点3には届かず、残留争いからは抜け出せないままだ。

慶大と後期絶好調の明大の一戦は、予想外の大差に。前半3分に明大が先制点を奪うと、21分に慶大が追いつく展開。しかし、ここから底力を見せつけた明大が30分に勝ち越すと、後半も2ゴール。4-1で慶大を一蹴した。明大は後期4連勝で、首位の順大を3ポイント差で追走。慶大は後期に入ってから1勝1分2敗と、なかなか結果が出ない。

必死に首位・順大を追う早大は、最下位の筑波大との対戦。風下の前半、思いうようなプレーができず、8分には失点してしまった。後半、反撃に出るが、最後まで必死の守りを見せる筑波大のゴールを割ることができず、0-1の敗戦。上位陣が敗れたため差は開かなかったものの、首位に立つチャンスを見逃した。筑波大はようやく最下位を脱出したものの、残留争いはまだまだ続く。

得点ランキング

前澤 甲気(専大)	10点
藤本 佳希(明大)	9点
山根 視来(桐蔭大)	8点
平松 宗(国士大)	7点
佐野 翼(順大)	6点
近藤 貴司(早大)	6点

アシストランキング

北出 雄星(専大)	5アシスト
板倉 直紀(駒大)	5アシスト
差波 優人(明大)	5アシスト
仲川 輝人(専大)	4アシスト
以下4アシスト4名	

なかなか波に乗り切れない国士大と、残留争いの渦中にある中大の一戦は、国士大のゴールラッシュ。終わってみれば5-1の大差がついた。中大はこの敗戦で最下位に転落。苦しい戦いが続いている。

ともに残留争いを回避したい流経大と桐蔭大のゲームは、4得点と桐蔭大の攻撃陣が爆発。流経大は1点を返すのがやっとだった。桐蔭大は8位と順位を上げ、逆に流経大は9位と残留争いに巻き込まれる格好となった。

明大が4連勝と後期好調だけに、ここからさらに突っ走り、逆転優勝となるのか。それとも順大、専修、早大といったところが意地を見せるのか。優勝争いは例年以上に混戦となっている。また、残留争いも熾烈な戦いとなっているだけに、ここから先も目が離せない!!

JR東日本カップ 2014 [第88回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	順大	専大	明大	早大	国士大	慶大	駒大	桐蔭大	流経大	東工大	筑波大	中大	勝数	分数	負け	総得点	総失点	得失点差	勝点
1	順大	201	0Δ0	0Δ0	201	0●1	100	401	301	2Δ2	200	201	10	3	2	26	11	15	33
2	専大	1●2		1Δ1	300	200	2Δ2	600	502	201	200	402	9	3	3	34	16	18	30
3	明大	0Δ0	1Δ1		201	2●3	0●2	200	401	0●1	100	301	9	3	3	26	14	12	30
4	早大	0Δ0	0●3			301	200	301	0Δ0	1Δ1	200	100	8	4	3	19	12	7	28
5	国士大	1●2	0●2	302	1●3		0Δ0	2Δ2	100	201	1Δ1	300	7	4	4	24	18	6	25
6	慶大	100	2Δ2	200	0●2	0Δ0		200	300	0Δ0	0●2	100	7	4	4	18	14	4	25
7	駒大	0●1	0●6	0●2	1●3	2Δ2	0●2		302	300	100	403	7	2	6	23	28	-5	23
8	桐蔭大	1●4	2●5	1●4	0Δ0	0●1	0●3	2●3		201	200	301	5	1	9	20	30	-10	16
9	流経大	1●3	1●2	100	1Δ1	1●2	0Δ0	0●3	1●2		403	0●1	4	2	9	15	25	-10	14
10	東工大	2Δ2	0●2	0●1	0●2	1Δ1	200	0●1	0●2	3●4			2	5	8	15	23	-8	11
11	筑波大	0●2	0●2	1●3	0●1	0●3	0●1	3●4	1●3	100	1Δ1	0Δ0	2	3	10	10	24	-14	9
12	中大	1●2	2●4	1Δ1	1●2	1●2	1●2	1●2	301	0●1	0●1	0Δ0	2	2	11	15	30	-15	8

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

悩むより、走り出そう。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

明治大学 vs 筑波大学

10月4日(土)
11:30K.O.
古河

後期4連勝と現在、一番波に乗っているのが明大。前節は4位・明大と5位・慶大の上位対決となったが、守備が安定している慶大を相手に、4ゴールを奪った攻撃力は圧巻だった。

「勝ててよかった。前期では慶大に負けているので、内容よりも同じ相手に二度負けないということ、一人ひとりが心がけてやっていた。そういう思いでゲームに入って、結果として勝つことができたのだから、そこは成長の証だと思う」(栗田大輔助監督)

前期とはまったく違った姿を見せているが、アジア競技大会(韓国・仁川)に参加していたDF室屋成(2年)が復帰するのも、さらにプラス材料だ。

「守備の部分で、みんなが共通の認識を持ってゲームに臨んでいる。そこはいいところだと思う」(栗田助監督)
12チーム中、もっとも攻守にバランスが取れているチームといえるだろう。

残留争いの渦中にある筑波大。後期もなかなか勝てずに苦しい戦いが続いていたが、前節の早大戦は前半8分のゴールを守りきり、1-0で早大を下した。この勝利は今後の自信につながりそうだ。

「しばらく勝てていなかったのが、勝つってこんなに気

持ちがいいんだということ、みんなが味わえてよかったと思う。自分たちがやろうとしていることを、攻撃も守備も90分間通してやり続けられた。ピンチもあったが無失点で抑えられ、引き締まったいいゲームだった。最後まで気の抜けない状況の中で、集中力を切らさずにやりきれた」(中山雅雄監督)

とはいえ、まだ1勝。残留争いから脱出するためには連勝が必要だ。

出場停止:藤本佳希(明大)警告3回:小谷光毅(明大)、西村洋平、車屋紳太郎(筑波大)

前期の対戦:明大3-1(シュート数9-10)筑波大

明大		筑波大	
6. 高橋	9. 矢島	28. 吉川	6. 片岡
5. 松藤	10. 和泉		8. 早川
	18. 苅部		13. 齋藤
1. 三浦		17. 中野誠	1. 岩脇
	7. 差波	10. 中野嘉	7. 車屋
3. 山越	29. 土居		5. 西村
13. 小出	8. 石原	26. 戸嶋	3. 三丸

駒澤大学 vs 桐蔭横浜大学

10月5日(日)
11:30K.O.
味フィ西

後期開幕当初はなかなか波に乗りきれなかった駒大だが、前節では首位の順大を1-0で下して2連勝。

「無失点に抑えたのは後期初めてなので、頑張ったと思う。徹底して前からプレスしたり、外から攻めたり真ん中を使ったり、一人が決断して決めたらそれを徹底してやるということが浸透している」

と、秋田浩一監督も手応えを得た様子。しかし、ここから上を目指すうえで、まだまだやらなければいけないことも多い。

「運動量が少ないし、前からのプレスを継続してやれるようになれば、もう少し楽にできると思う」(秋田監督)
ようやく駒大らしさを見せ始めたといったところで、さらに質の部分上げていけばインカレ出場のみならず、インカレでの活躍も見えてくる。それだけに、ここからの戦い方が正念場だ。

「桐蔭大も15節で勝利したので、ここが勝負どころだといっている。しっかりやりたい」(秋田監督)

順位を8位まで上げて、残留争いから少し抜け出した格好の桐蔭大。前節の流経大戦は4-1の完勝だったが、

「この勝敗で順位が変わる形だったので、勝ててよかつ

た。ピッチの中で選手たちが情熱や責任感、判断というものをしっかり表現し、戦い抜いた」(八城修監督)

今後を戦ううえで、大きな1勝だったといえる。ただ、残留、またはインカレ出場に向けての戦いは、ここからが本番だ。

「流れの悪い時間帯のときに失点してしまったが、このまま挑戦していく姿勢を忘れずに、戦い抜きたい」(八城監督)

警告3回:伊藤慎人、平野篤志、板倉直紀(以上駒大)、金子雄祐(桐蔭大)

前期の対戦:駒大3-2(シュート数11-8)桐蔭大

駒大		桐蔭大	
16. 柳川	11. 小牧	9. 今関	3. 石堂
4. 平尾		11. 石川	4. 古澤
	10. 板倉		13. 岡本
21. 積田	9. 小牟田		1. 土井
	14. 中村		6. 福島
	5. 伊藤		25. 鈴木
3. 川岸			24. 時田
13. 大木	7. 平野	7. 山根	28. 中島

専修大学 vs 流通経済大学

10月4日(土)
13:50K.O.
古河

後期に入って苦しんでいるのが専大。4年ぶりの連敗に続き、前節も残留争い中の東国大に2-2の引き分けと勝ちきれず、これで3試合連続勝ち星なしと長いトンネルに入ってしまった。2得点は明るい材料だが、そのほかにも決めるべきところがあったし、もっといえば攻撃の形がまだまだ悪い。

「ケガ人もあり、ボランチのところ固定できず、中央からの攻撃の形が思うように作れないというのが一つある」(源平貴久監督)

その状況の中で改善していかなければならないが、「継続してやっていくしかない。仕留められるときに仕留めていれば問題ない。今できるのは、セットプレーの失点を減らすといったところ」(源平監督)

この日も1失点はCKからだった。また、全体的に見ても、もう一歩体を早く寄せたり、次のポジショニングを早く考えるといったことも必要になってくるだろう。

総理大臣杯で優勝し、上り調子と見られた流経大だが、前節は桐蔭大に1-4で敗れ、これで後期は1勝3敗となかなか結果が出ず、順位も9位と完全に残留争いに巻き込まれた格好。現在、必死に立て直しを図っているが、決して状態がいいとはいえない。

「完敗。2戦続けてすべて自分たちのミスから失点してしまった。同点に追いついたところだけはよかったが、守備があんな状態では得点してもあまり評価できない」

と、中野雄二監督も非常にしぶい顔。試合の翌日にはJリーグチームと練習試合を実施したが、やはり同じようにミスから失点してしまい、修正はできていないだけに中野監督も頭が痛い。一気に好転させる手立てはないだけに、しっかり積み重ねていきたいところだ。

警告3回:萩間大樹(専大)、田上大地、古波津辰希(以上流経大)

前期の対戦:専大2-1(シュート数14-4)流経大

専大		流経大	
5. 小口	11. 前澤	20. 江坂	26. 藤原
15. 飯田		23. 森永	18. 今津
	26. 長岡		6. 富田
1. 福島	37. 吉村	10. 仲川	21. 吉田
	7. 北出		25. 古波津
3. 萩間		19. ジャーメイン	3. 田上
2. 北爪	14. 佐藤	9. 中村	4. 鈴木

順天堂大学 vs 東京国際大学

10月5日(日)
13:50K.O.
味フィ西

順大の快進撃がストップした。前節で駒大に0-1の敗戦。勝点を伸ばすことができなかった。

「負けてしまい非常に悔しい」
と、吉村雅文監督も唇をかみしめた。

「われわれのコンセプトである前からプレスのかけて奪い、裏を狙っていこうとしたが、相手にすべてはね返されてしまった。また、それをかいくぐって、きちんと前からプレスをかける状況を作り出す工夫ができなかった」(吉村監督)

駒大を相手にボールを奪うポイントがなかなかなく、難しいゲームになったのは確かだが、その中でももう少し工夫して、ボール奪取からの攻撃を心掛ければいけなかった。

「残り7試合のすべてで、自分たちがやろうとしているコンセプトを繰り返してトライしていく」(吉村監督)

ここで連敗するようだと、優勝への道は厳しくなってくるが……。

10位と残留に向けて苦しい順位にいる東国大だが、前節は専大を相手に2-2と、堂々と渡り合った。

「前年度に優勝したチームだけあって、個の能力やスピードが違った。システムをいつもと変えて挑戦した。た

だ守るだけではなく、攻撃もやらなくてはいけない。点を取りにいき、相手にはやらせないというサッカーを取り組んできた。専大戦に向けて1週間、やり方を今までとは変えてやった。それに順応して思うようにできたほうだと思う」(前田秀樹監督)

しっかりと練習の成果を見せたといえるだろう。ただ、専大と順大はまったくタイプが違うチーム。それだけに、また新たな戦いを見せるのかどうか。

警告3回:佐野翼(順大)、福島遼(東国大)

前期の対戦:順大2-2(シュート数9-6)東国大

順大		東国大	
2. 友澤	22. 原田	28. 田山	12. 国井
13. 宮本			15. 舛田
	6. 長谷川涼		8. 上船
21. 大畑	9. 佐野	9. 福島	4. 加藤
	10. 長谷川竜		21. 今野
	7. 内山		23. 成田
4. 谷奥			5. 鈴木
3. 吉永	24. 室伏	22. 菅原	2. 大森